

がん診療より高度に

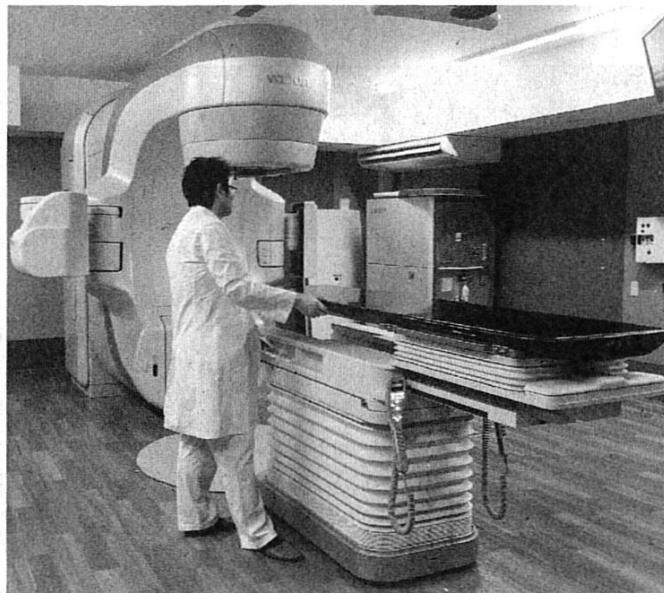
首都圏を中心に29病院を運営する戸田中央医科グループ(TMG、埼玉県戸田市)は、基幹病院の戸田中央総合病院(同市)に新棟(E館)を建設した。最新型の医療設備を備えた放射線治療部門と緩和ケア部門を集約し、がん診療の機能を高めた。地域の中核病院としてより高度な医療を提供できる環境を整え、患者の安心につなげる。

E館は地上3階建てで、1階に放射線治療室、2階に18床の緩和ケア病棟、3階に緩和ケア外来と核医学検査室などを設けた。従来は別棟のB館やC館に点在する形で入っていたが、集約して医療機能や患者の利便性を高める。3月上旬以降、準備が整った設備から順次稼働する見通しだ。

目玉となるのは、1階に導入する最新の「高精度放射線治療システム」だ。小さな病巣に的確に照射できる機能を持ち、脳腫瘍や肺がん、肝がんなど幅広い病例に対応する。治療時間も短くなる見込みで、通常1時間半〜2時間程度かかる多発性脳転移の場合、約15分で治療できるという。

同システムと併せ、高精度カメラで体表面の動きを検知するシステムも導入する。放射線治療では照射の目印として皮膚

戸田中央総合病院に新棟



短時間で高精度に放射線治療ができる最新鋭のシステムを導入する

放射線治療・緩和ケア 集約

にインクで線を引く必要があるが、新システムを使えば治療位置の照合が短時間で正確に検知できるため、インクの線を大幅に減らせる利点がある。患者の肉体的、心理的な負担の軽減を目指す。

3階の核医学検査室には、臓器などの機能と代謝の情報が見られる単一光子放射断層撮影装置(SPECT)と、コンピュータ断層撮影装置(CT)を組み合わせた高精度の検査機器を設ける。細かい病変が把握しやすく、脳疾患や心臓疾患、骨転移などの早期発見が期待できる。

同病院は2015年、質の高いがん医療を提供する「地域がん診療連携拠点病院」に指定された。現在はそのうち同一医療圏で最も優れた病院を国が指定する「高度型」の取得を目指しており、新棟稼働によるがん診療機能の強化でより存在感を高めたい考えだ。